

## 第 28 回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立100周年を記念した奨励基金により、有為な人材の育成に資することを目的に、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

### 【学術・文化の分野】

阿久澤 未来	経済学部 3年	論文「日本経済に求められる成長戦略のあり方を考える」が、公益財団法人みずほ学術振興財団主催第55回懸賞論文において佳作を受賞した。
八若 大輔 市村 佳里奈	経済学部 3年	モバイル社会への提案レポート「チャリーンの提案 - ストップ二宮金次郎 -」がモバイル社会研究所主催ケータイ社会研究レポートコンテストにおいて優秀賞を受賞した。
本多 正人	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	学術論文作成・学術発表を多数行い、それらの業績が日本冷凍空調学会主催2014年度日本冷凍空調学会賞・会長奨励賞を受賞した。
山口 百合香 他共同者 4人	理工学部 4年	論文「ロコモデータの解析結果を考察した調味料メーカーのウェブマーケティング」が、株式会社NTTデータ数理システム主催2014年度VMStudio&TMStudio学生研究奨励賞において最優秀賞を受賞した。

### 【体育の分野】

陸上競技部	学友会体育連盟	第83回 日本学生陸上競技対校選手権大会（インカレ）	4×100mリレー	優勝
自転車競技部	学友会体育連盟	第70回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会（インカレ） 男子4Kmチームパーシュート	優勝	日本学生新記録および大会新記録樹立
射撃部	学友会体育連盟	第10回 日本学生選抜ライフル射撃選手権大会 第10回 日本学生選抜ライフル射撃選手権大会 第10回 日本学生選抜ライフル射撃選手権大会	女子団体 50m3×20W団体 10mS40W団体	優勝 優勝 優勝
権田 達也	法学部 3年 (重量挙部)	第60回 全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会 第60回 全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（インカレ）	56キロ級 56キロ級	優勝 優勝

## 第 22 回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を収めた者に授与するものです。

五十嵐 康平	経済学部 4年	演習論文「欧州金融監督制度の変遷～分権的監督から銀行同盟まで～」は、EUの金融監督の歴史的発展を詳細に分析している。参考文献・資料一覧に掲示されているように、この分野の邦文の文献を渉猟し、研究論文水準の卒業論文としてとりまとめた点で高く評価できる。とりわけ銀行同盟の分析と評価、将来の中央集権型金融制度の提案などにおいて独自の特徴・注目すべき提案を行っており、経済学部の演習論文の中で最優秀論文と言える。
松田 奈々	商学部 4年	演習論文「IFRS適用の決定要因に関する実証分析」では、日本企業を対象にIFRS (International Financial Reporting Standards) 適用の決定要因を実証的に分析している。本稿では東証1部上場企業のデータを用い企業のIFRS適用までの期間に対する決定要因を明らかにしている。推定結果から、のれん償却や研究開発費の大きい企業、規模の経済のはたらきやすい大企業ほどIFRSを早期に適用することを明らかにしている。
横山彰事例研究 I y 班	総合政策学部	共同研究論文「固定価格買取制度改正一均等割総量規制政策による負担抑制」は東日本大震災後の日本のエネルギー政策のあり方について、的確な現状把握と現状分析を行ったうえで、再生可能エネルギー促進によるエネルギー自給率の向上が必要であると認識し、再生可能エネルギー促進策の固定価格買取制度に関して新たな政策提言を行った。この政策提言「均等割総量規制政策」は、余剰分析と産業連関分析を用いて従来の固定買取制度が家計・産業に与える負担を計量的に示したうえで、数値シミュレーションによって効率的な促進配分を明らかにし、それに基づいた均等割総量規制政策を提言している。また、この研究成果は公共選択学会「第17回学生の集い」で最優秀賞を受賞するとともに、総合政策学部「第2回リサーチ・フェスタ」でも最優秀賞を受賞している。

## 第 20 回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

沈 亮	大学院総合政策研究科 博士課程前期課程 総合政策専攻	修士論文「廃家電リサイクル産業における拡大生産者責任制度について—上海市への応用についての示唆—」は、日本を中心とした先進諸国における拡大生産者責任（EPR：Extended Producer Responsibility）制度の概念と変容を、新たな類型化を通して理論的・実証的に検討し考察した上で、上海市へEPR制度の適用をいかに行うかについて独自の見解を提示している。 特に、「適正処理・リサイクル責任」「システム構築責任」「環境配慮設計責任」の区分ごとに、上海市で生産者にいかなる責任を負わせるかを明確にしたうえで、細分化・簡易化・ユニット化の視点から上海市におけるEPR制度の実効性を高める方向性を提示している点は極めて高く評価される。
-----	----------------------------------	---

## 第 20 回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

新庄 翔太	法学部 4年 (陸上競技部)	第83回 日本学生対校選手権大会 第91回 東京箱根間往復大学駅伝競争大会	5000m 第2区	3位入賞 (日本人トップ) 区間9位
-------	-------------------	--	--------------	-----------------------

## 第 18 回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

金野 将志	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	研究発表「Development of an Omnidirectional Mobile Robot with a Spiral-Type Traveling-Wave-Propagation Mechanism」が、ポーランド・ボズナンで行われた移動・登攀ロボットに関する国際会議「17th International Conference on Climbing And Walking Robots (CLAWAR2014)」にて全発表者100人弱のうち3人に選ばれ、Industrial Robot Innovation Award2014を受賞した。また、これ以外にも国内学会2件（ロボティクス・メカトロニクス講演会2014、第32回日本ロボット学会学術講演会）において、研究発表を行った。更に、2つの英文ジャーナル「Industrial Robot」、「Advanced Robotics」に論文を投稿し、前者は採択され、後者は現在査読中である。加えて、本研究に関わる技術は特許出願にも至っている。
木曾川 悠太	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	研究論文「配位子型光酸発生剤の開発」は、国際会議「41st International Conference on Coordination Chemistry」においてショートプレゼンテーションに選出されるとともに、研究概要が「月刊 ケミカルエンジニアリング12月号」に掲載され、国内外から高い評価を受けている。 金属と錯形成して感光波長を変更できる配位子型光酸発生剤の開発に成功した。一般的に、光酸発生剤の感光波長を変えることは難しく、かつ、既存の光酸発生剤の多くは紫外線にのみ感光するものに限定されているが、配位子型光酸発生剤は、錯形成させる金属を変えるだけで紫外線だけでなくさまざまな波長の可視光にも感光できる。したがって、本研究成果は可視光を利用する省資源・省エネルギー型光産業を革新するだけでなく、錯体化学、光化学、高分子化学など幅広い基礎的分野の発展に寄与するものである。なお、研究成果に関しては、特許「金属錯体、その製造方法、それに用いるオキシムスルホネート系化合物、およびそれを用いた光酸発生剤」の出願を完了している。
須貝 崇史	大学院法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	論考「著作権法における『間接侵害』論再考」は、著作権法上の「間接侵害」と呼ばれる問題を再検討する内容であるが、従前の錯綜した議論を整理し、この問題に関する裁判例を踏まえつつ、新しいITサービスを展開するという視点から再検討することにより、著作権法が抱える課題を浮き彫りにし、その解決の糸口を示した。同論考は、一般社団法人日本知財学会が開催した第12回年次学術研究発表会におけるプレゼンテーションで、学生優秀発表賞を受賞した。

## 第 18 回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境工学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境学科及び大学院理工学研究科都市環境学専攻に在籍をする学生であって、都市環境工学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

凌 国 明	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 都市環境学専攻	「有限要素法に基づく2次元・3次元津波解析とそのハイブリッドモデルの構築」の研究に励み、国際会議（18th International Conference on Finite Elements in Flow Problems：FEF2015）において発表を予定している。また、修士学位論文発表会において、最優秀講演の評価を受けた。更に、大学院の成績も極めて優秀であり専攻内で1番の成績も収めた。
俊 成 優 太	理工学部 4年	地盤工学研究室では、高度な装置を使い、技術と忍耐力を要する砂の液状化に関する実験的研究に取り組み、短期間で修士課程の大学院生並みの実験成果を生み出し、土木学会関東支部や地盤工学研究発表会で発表予定である。 4年間トップクラスの成績で通し、国家公務員総合職試験にも合格した実績の一方で、学科や大学を超えたサークルなどでのひろい交友関係でマラソン大会・フットサル大会などにも頻繁に参加し、文武両道の快活な若者である。

## 第 18 回 久保田昭夫女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、学友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

青 木 栄 美 花	文学部 4年 (女子陸上競技部)	第83回 日本学生陸上競技対校選手権大会 (インカレ) 女子走高跳 優勝
山 本 怜	文学部 1年 (女子卓球部)	第81回 全日本大学総合卓球選手権大会 (個人の部) 女子シングルス ベスト4 全日本学生最優秀新人選手賞受賞 平成26年度 全日本卓球選手権大会 女子シングルスおよび混合ダブルス とともにベスト16

## 第 61 回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

### 【優秀団体賞】

水泳部	第90回 日本学生選手権水泳競技大会 (インカレ) 学校対抗 団体優勝
バレーボール部	平成26年度 春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 優勝 第67回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会 18年ぶり13回目 優勝
準硬式野球部	東都大学準硬式野球春季リーグ戦 9季連続58回目 優勝 第66回 全日本大学準硬式野球選手権大会 11回目 優勝
自動車部	全日本学生自動車連盟年間総合杯 (団体) 総合優勝
バドミントン部	第65回 全日本学生バドミントン選手権大会 (インカレ) 団体優勝

### 【努力団体賞】

ソフトテニス部	第64回 東日本学生大学対抗ソフトテニス競技大会 団体優勝
射撃部	第10回 日本学生選抜ライフル射撃選手権大会 女子総合 優勝 平成26年度 関東学生ライフル射撃選手権秋季大会 女子総合 優勝

### 【特別賞】

スケート部	第27回 ユニバーシアード冬季競技大会 アイスホッケー男子 日本代表 小野田拓人 (法4) ・越後智哉 (法4) ・小泉和也 (法3) ・古橋真来 (法3) 中島彰吾 (総3) ・加藤慎之助 (総2) ・鈴木健斗 (法2)
-------	---

【リレー賞】

陸上競技部	第93回 関東学生陸上競技対校選手権大会	男子4×100m	優勝
	川上拓也(法1)・猶木雅文(法3)・日吉克実(文1)・谷口耕太郎(商2)		
	第93回 関東学生陸上競技対校選手権大会	男子4×400m	優勝
水泳部	第90回 日本学生選手権水泳競技大会(インカレ)	男子400mリレー	優勝
	内田 仁(法4)・砂間敏太(法1)・大本鷹志(経2)・矢野貴寛(総4)		
自転車競技部	第70回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会(インカレ)	男子4kmチーム・パシュート	優勝(日本学生新記録および大会新記録)
	黒瀬耕平(法4)・緑川峻一(法4)・高士拓也(法3)・原井博斗(法1)		

【優秀選手賞】

但馬 ミツロ	商学部 2年 (ボクシング部)	第84回 全日本ボクシング選手権大会	ライトヘビー級	優勝
石川 祐希	法学部 1年 (バレーボール部)	第17回 アジア競技大会(仁川)	日本代表	2位
		第67回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会		最優秀選手賞
宮本 慎矢	法学部 4年 (スキー部)	第27回 ユニバーシアード冬季競技大会	スキー/アルペン	日本代表
宮本 隼輔	経済学部 2年 (自転車競技部)	第70回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会(インカレ)	男子スプリント	優勝(2連覇)
西本 拳太	法学部 2年 (バドミントン部)	第65回 全日本学生バドミントン選手権大会(インカレ)	男子シングルス	優勝(2連覇)

【体育賞】

森 誉	文学部 2年 (陸上競技部)	第83回 日本学生陸上競技対校選手権大会(インカレ)	男子やり投げ	優勝
多田 康治	理工学部 4年 (自動車部)	平成26年度 全関東学生ダートトライアル選手権大会	男子の部	優勝
		平成26年度 全日本学生ジムカーナ選手権大会	男子の部	優勝
		全日本学生自動車連盟年間総合杯(個人)		優勝
簾内 長仁	理工学部 2年 (フェンシング部)	第64回 全日本学生フェンシング個人選手権大会(インカレ)	男子エペ	優勝
青木 栄美花	文学部 4年 (女子陸上競技部)	第83回 日本学生陸上競技対校選手権大会(インカレ)	女子走高跳	優勝
梅ヶ谷 翔	法学部 1年 (剣道部)	第62回 全日本学生剣道選手権大会		優勝
権田 達也	法学部 3年 (重量挙げ部)	第60回 全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会	56キロ級	優勝
		第42回 東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会	56キロ級	優勝
		第60回 全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会(インカレ)	56キロ級	優勝
小澤 徹也	商学部 4年 (ラクロス部)	第12回 F I L男子ラクロス世界選手権大会	ミッドフィールダー	日本代表

【努力賞】

猶木 雅文	法学部 3年 (陸上競技部)	第93回 関東学生陸上競技対校選手権大会	男子200m	優勝
江頭 広樹	経済学部 4年 (バレーボール部)	平成26年度 春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦		最優秀選手賞
萩原 大貴	法学部 4年 (準硬式野球部)	東都大学準硬式野球春季リーグ戦		最優秀選手賞
笠井 武広	商学部 3年 (重量挙げ部)	第42回 東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会	69キロ級	優勝
吉村 慎太郎	商学部 2年 (射撃部)	平成26年度 関東学生ライフル射撃選手権春季大会	10mS60M	優勝
小泉 茉優	商学部 4年 (射撃部)	第10回 日本学生選抜ライフル射撃選手権大会	50m3×20W	優勝
近藤 拓未	商学部 3年 (バドミントン部)	平成26年度 関東学生バドミントン選手権大会	男子シングルス	優勝

【優秀監督賞】

高橋 雄介	水泳部
松永 理生	バレーボール部
池田 浩二	準硬式野球部
服部 和彦	自動車部
西山 博司	バドミントン部

【永年監督賞】

準硬式野球部	池田 浩二
洋弓部	澤田 剛之

【学長賞】

但馬 ミツロ	商学部 2年 (ボクシング部)	宮本 隼輔	経済学部 2年 (自転車競技部)
石川 祐希	法学部 1年 (バレーボール部)	西本 拳太	法学部 2年 (バドミントン部)
宮本 慎矢	法学部 4年 (スキー部)	梅ヶ谷 翔	法学部 1年 (剣道部)

第 32 回 学員会会長賞

本賞は、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野(団体)】

さんさんびと	FLP (ファカルティ・リ ンケージ・プログラ ム)	FLPのゼミ活動を母体とした「さんさんびと」は、東日本大震災の被災地宮城県南三陸町の人・自然・食の魅力を知ってもらいたいと考え設立した学生主体の団体である。現地に度々赴き、現地の人との交流を主にした学生ツアーを企画、運営した。大学内にとどまらず、他大の学生までも継続的に訪れられるしくみを作ることに力をいれ、地域に貢献している。
被災地支援学生団体ネットワーク はまぎくのつぼみ	法学部在学学生所属団体	岩手県宮古市において仮設住宅でのコミュニケーション支援や、学童クラブでの学習支援等継続的に支援活動を続け、現地での厚い信頼を得ている。これらの功績が評価され、宮古市社会福祉大会会長感謝状を贈られた。この活動は本学におけるボランティア文化の醸成に深く関与している。
FLP環境プログラム・佐々木 創 ゼミ	FLP (ファカルティ・リ ンケージ・プログラ ム)	卒業生の不用品を新入生に引き渡す「リユース市」を、行政(八王子市)と連携した日本初のイベントとして実施し、各種マスコミに取り上げられ、平成26年度環境省のモデル事業に採択された。これらは、地域の環境負荷の低減、当学在学生の環境意識の醸成に資するものである。
渡辺 岳夫ゼ ミ・インディ アン 土屋	商学部	研究報告「インターンシップの実施が組織成員の内発的動機づけに及ぼす影響に関する実施研究」が、全国の経済学部・経営学部・商学部の学生を対象とした歴史ある大会「日本学生経済ゼミナール大会」プレゼンテーション部門において優勝し、最高位である優秀賞を受賞した。 この研究成果はロボット「二三式 鈴鈴王」のチームが、大学院修士課程の研究水準に到達していると言えるほど卓越したものである。
精密機械工学 研 究 部	理工学研究科在学学生 所属団体	かわさきロボット競技大会2014において、256チーム中上位に与えられる「敢闘賞」を受賞した。また、「Hondaエコマイレージチャレンジ全国大会」に毎年参加し、現代社会でも関心の高い「エコ」という観点からの「ものづくり」に力を入れて活躍を継続している。
横山彰研究会	総合政策学部	論文「固定価格買取制度改正一均等割総量規制政策に負担抑制」が、公共選択学会第17回学生の集いにおいて、13大学37チームの中で最高の評価である、最優秀賞を受賞した。 論文「マンションの多数決議要件の緩和～首都直下型地震をモデルケースに～」が、ISFJ日本政策学生会議：政策フォーラム 2014において、22大学130チームの中で最高の評価である、特別優秀賞を受賞した。 両論文とも学部生として極めて高い水準にあり、その研究成果は本学におけるゼミ教育の意義を世に示すものである。
FLPジャーナ リズムプログラム 松野良一ゼミ	FLP (ファカルティ・リ ンケージ・プログラ ム)	ドキュメンタリー「絵手紙に綴られた東日本大震災」が、「地方の時代映画祭」で優秀賞を受賞した。また、東京ビデオフェスティバルで優秀作品賞を受賞した。 ドキュメンタリー「八王子空襲～5人の証言～」、証言記録プロジェクト「台湾二二八事件と中大卒業生」(中央評論)、「沖縄問題」(書籍)などの活動が、読売、東京、産経、台湾の自由時報などのマスメディアに取り上げられ、国内外で本学の名声を高めた。

【学術・文化・社会の分野（個人）】

平澤 翔	法学部 3年	一般社団法人日本ビートボックス協会が主催するビートボックスの日本一決定戦公式大会において、個人部門で優勝した。また、史上初の2度の日本一に輝いたビートボックスチーム“FOLK:LORE(フォークロー)”にも所属し、10代の時に世界大会のゲストショーケースや、CM出演等を経験している。日本テレビ系列“スッキリ!!”や日本最大級の野外フェスティバル“SUMMER SONIC”にも出演し、現在では日本国内の数々のバトルやコンテストで優勝を収め、2013年にスイスにて開催された世界大会では日本代表として出場し5位を獲得した。更に、2015年にドイツで開催される世界大会にもソロ・チーム両方に日本代表として出場する予定である。
重里 昂江	経済学部 2年	気仙沼の大島を中心としたボランティア活動を行い、地元新聞の「三陸新報」から「ボランティア体験記」の寄稿を求められ、本学のボランティアグループの活動を広く知らしめた。また、FLPに参加し、その成果を日野市市民活動フェアや中央大学ホームカミングデー、住友商事チャレンジプログラムなどの活動にも活かし地域再生に積極的に関わった。
川嶋 真実	商学部 3年	日本の文字文化の振興発展に役立つことを目的とする全国学生書道展（席書の部）で第38回展記念特別大賞を受賞した。学業に励む一方、個人的に書道に鍛錬し、受賞したことは、今後の書道振興への役立ちも期待されると共に本学の名声を高めた功績は大きい。
嶋村 海人	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 数学専攻	研究発表「モデル平均化法によるBayesian lasso回帰モデリング」が、日本計算機統計学会第28回シンポジウムにおいて、学生研究発表賞を受賞した。多くの研究者が取り組んでいる高次元ビッグデータに基づくモデル化と情報抽出の研究に、数学理論に計算アルゴリズムを融合させた方法で取り組み、実用かつ効率的なデータ解析法を提唱した。この研究成果は高く評価され、東北メディカル・メガバンク機構の研究者との共同研究に発展し、ゲノムワイド疾患関連解析の研究を推進中である。
草野 涼太	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	草野氏の研究成果は査読付き学術論文4編（日本語1編、英語論文3編）、国際会議1件、そして口頭発表5件と、広く国内外へ発表されている。それらの成果は学協会や産業界から認められ、日本機械学会関東支部第20期講演会において、若手優秀講演フェロー賞を受賞した。また、日本材料学会関東支部学生研究交流会において、優秀講演発表賞（口頭発表の部）を受賞した。
丹羽 宙潤	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	日本機械学会関東支部第20期講演会において、若手優秀講演賞を受賞した。また、日本非破壊検査協会第46回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウムにおいて、新進賞を受賞した。その研究成果は査読付き学術論文3編（いずれも英語論文）、国際会議4件、そして口頭発表6件と、広く国内外へ発表されている。さらに、2編の学術論文誌への投稿準備を行っており、アメリカや中国の大学とグローバルな共同研究を積極的に推進している。
花輪 和人	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	2012年度から自動車技術会音質評価技術部門委員会で取り組んだ“タスクを用いた生体情報による音質評価手法の提案”に関する研究が、自動車に関連した技術分野の向上発展に特に貢献されたと評価され、大学院精密工学専攻58名より1名選出され、公益社団法人自動車技術会において2014年度大学院研究奨励賞を受賞した。この賞は将来の自動車に関連した技術分野の発展を担う若手研究者を奨励する賞である。
伴 遼介	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	講演「曲管に対応した管内挿入型蠕動運動ポンプの開発」が、第14回 計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会において、発表件数728件中約1割が選ばれる優秀講演賞を受賞した。また、第32回日本ロボット学会学術講演会（RSJ2014）や、国際学会では2013年と2014年にIEEE International conference Robotics and Biomimetics（ROBIO2013および2014）で学会発表を行った。さらにイノベーション・ジャパン2013へのポンプの出展、「自然に学ぶものづくりフォーラム」にてポンプの出展とポスター発表を行った。これらの研究は日経産業新聞にて報道された。
磯邊 柚香	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	ヨーロッパ精密工学会euspen主催のPBL型イベントであるeuspen Challenge2104において、Best Performance of the Prototypeを受賞した。euspen Challengeは会員が主として参加するイベントであり、今回初の試みとして日本人の参加枠が1枠設けられ、日本人の代表として磯邊氏が参加した。本回の活動および受賞により、来年度も日本人枠が設けられる事が決定している。これらの成果は国内のみならず国際的にも本学の名誉を高めることに大きく貢献している。
尾崎 智哉	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	ポスター発表「2D/3DレジストレーションにおけるStructure from Motionを用いた高精度な初期位置合わせの実現」が、精密工学会秋季大会学術講演会において、上位5%に当たる優秀な発表に対して与えられる、ベストポスタープレゼンテーション賞を受賞した。
金野 将志	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	研究発表「Development of an Omnidirectional Mobile Robot with a Spiral-Type Traveling-Wave-Propagation Mechanism」が、ポーランド・ポズナンで行われた移動・登攀ロボットに関する国際会議「17th International Conference on Climbing And Walking Robots(CLAWAR2014)」にて全発表者100人弱のうち3人に選ばれ、Industrial Robot Innovation Award2014を受賞した。また、これ以外にも国内学会2件（ロボティクス・メカトロニクス講演会2014、第32回日本ロボット学会学術講演会）において、研究発表を行った。更に、2つの英文ジャーナル「Industrial Robot」、「Advanced Robotics」に論文を投稿し、前者は採択され、後者は現在査読中である。加えて、本研究に関わる技術は特許出願にも至っている。

呉 哲 英	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	カタツムリの移動方法を利用した、全方向移動が可能な壁面移動ロボットを開発し、IEEE/ASMEの主催する知的ロボットに関する権威ある国際学会において、全発表者300人の内6人のみが選ばれる優秀賞の最終候補者に残り、更にその中から1人のみが選ばれる最優秀賞を受賞した。また、本研究の内容を計測自動制御学会の論文集に投稿し採択された。さらに国内の学会において2件の論文を発表している。
島 野 諒	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	研究発表「DEVELOPMENT OF A HEXAPOD WALKING ROBOT USING A STRAIGHT TYPE ARTIFICIAL MUSCLE THAT CAN CARRY A LOAD OF 300 N」が、ポーランド・ボズナンで行われた移動・登攀ロボットに関する国際会議「17th International Conference on Climbing And Walking Robots (CLAWAR2014)」にて発表者100人弱のうち5人に選ばれ、「CLAWAR Association Best Technical Paper Award」を受賞した。 研究発表「Vibration Reduction for Water Strider Robot using Leg Springs」が、生物規範を扱う国際学会「The Sixth International Symposium on Aero Aqua Bio-Mechanism」において、60人弱のうち3人のみに贈られる「Student Award」を受賞した。
橋 本 直 樹	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子工学専攻	ロボットの移動時の逐次環境計測データをつなぎ合わせる地図作製法を提案し、各空間軸への分割計算による精度向上を提案した。また、これまで解析的に証明することができなかった提案方式の効果をEM法を利用する事で行った。これらの成果を、IEEE(米国電気学会)の主催する最大規模の国際会議IECON2014(電気工学技術の国際会議)にて発表し、優秀発表者としてBest Presentation Recognitionを受賞した。
徳 富 司	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子工学専攻	論文「Enterprise-Grade 6X Fast Read and 5X Highly Reliable SSD with TLC NAND-Flash Memory for Big-Data Storage」 これらの成果が、半導体のオリンピックとも呼ばれる集積回路で世界で最も威厳がある学会ISSCC2015において極めて高く評価され日本人では初めてのSilkroad Awardを受賞した。この研究は、大容量のフラッシュメモリを高速、高信頼に使用できるSSDのコントローラー技術を提案し、合わせて、フラッシュメモリに発生するエラーを修正する誤り訂正技術、動的電圧最適化手法、データの自動回復技術を提案したものである。
山 崎 泉 樹	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子工学専攻	論文「1 Xnm NAND フラッシュメモリの各書き換え回数における最適な非対称符号化手法」が、電子情報通信学会の集積回路研究専門委員会(ICD)主催2013年度学生・若手研究会において、他の発表者が修士学生という中で最優秀ポスター賞を受賞した。この研究はアプリケーション求める書き換え回数やデータ保持時間に応じて最適な変調方法を選択する技術を提案したものである。
池 田 洋 輔	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	講演「CP*I r (III) 錯体上における金属中心の遠隔転位」が、日本化学会第94回春季年会上において学生講演賞を受賞した。 この分野は、有機化学において現在最も重点的に研究が行われているひとつであるが、「1,4-転位」がほとんどであった。池田氏は「1,3-金属転位」というこれまでに知られていなかった様式のCH結合活性化反応を見出してこの分野の発展に大きく貢献した。
浅 川 博 祈	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	新規に非対称ジボラン(4)を合成し、これが一酸化炭素およびイソニトリルと反応して炭素-窒素三重結合を切断できること、この化合物が異常に強い電子受容性を持つことを発見した。これらの成果は、『Nature Commun.』誌および『Chem. Eur. J.』誌に学術論文として2報を発表し、学会発表で1件のポスター賞を受賞した。
出 雲 沙 織	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	研究発表「塩化水素ガス混合によるレーザーアブレーション粒子のICP中でのイオン化改善」が、つくば国際会議場で開催されたプラズマ分光分析研究会主催の2014つくばセミナーでイギリス王立学会(RSC)のJAAS Poster Prizeを受賞した。これは、ナノスケールの大気粉塵リアルモニタリングを目指し、プラズマ中に直接導入したナノ粒子の原子化・イオン化過程を解明した研究である。
小 沼 郁	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	ホウ素と窒素が置換したアルキンを合成し、これが置換基のpush-pull型の電子効果を反映して、ブタトリエン型の共鳴構造の寄与をもつことを明らかにした。また、このアルキンをCo錯体と反応させることでシクロブタジエンCo錯体とし、これに対して酸性条件での配位子交換を行うと、ホウ素と窒素が置換したシクロブタジエンが得られることを発見した。これらの成果は、日本化学会誌へ速報論文1報として発表しており、さらに第25回基礎有機化学討論会上において優秀ポスター賞を受賞した。
代 島 雄 汰	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	コア-シェル型の遺伝子組換え蛋白質クラスターを合成し、安定した人口酸素運搬体となることを明らかにした成果が、イギリス化学会の雑誌『Chemical Communications』に論文として掲載された。さらに研究内容のイメージ図が当該号の表紙として採択され、世界中に広く紹介された。活性酸素が多く存在する部位でも効率よく酸素輸送できるユニークな人工血液として大きな注目を集めている。
仲 村 太 智	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	アルミニウムを含んだアニオン性のベンゼン誘導体を世界で初めて合成し、この化合物が芳香族性を有すること、電荷分離型の化合物として見なせる反応性を示すことを明らかにした。また、この化合物はジルコニウムと錯形成して、分子内で塩素原子がアルミニウムに配位したジルコノセン型錯体を与えることを発見した。これらの成果は化学分野最高峰の雑誌であるアメリカ化学会誌へ速報論文1報として発表しており、錯体化学会第64回討論会上においてポスター賞を受賞した。

永 蔭 匠	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	錯体内へのシクロメタル結合の導入により二核錯体の電位チューニングができることを見出し、これをアメリカ化学会学会誌Organometallics (2014) に筆頭著書として発表した。その研究を表面デバイスに発展させるために、錯体の側鎖に表面アンカー基を導入した酸化電位の異なる二種類の錯体分子ユニットを合成し、2種類の錯体をヘテロ接合させた2次元膜での光分子メモリー機能の発現に成功した。これは、分子デバイスでの積層膜での分子配列の重要性を示した結果として、学会で高い評価を得て、錯体化学会の第64回討論会において、学生講演賞を受賞した。
春 木 理 沙	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	第21回日本血液代替物学会年次大会において学生講演賞を受賞した。 人口酸素運搬体（製剤名：HemoActTM）の血液適合性および安全性を物理化学的解析、さらには医学・薬学チームとの共同実験から明らかにした。本研究の成果は、人工血液の開発に新しい突破口を開くものであり、先進医療にはもちろん人類の健康福祉に与える意義はきわめて大きい。
平 島 健 吾	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	熱水条件下における希薄酸水溶液を反応溶媒として用い、セルロースを効率的に単糖・オリゴ糖に変換する加水分解反応を実現し、反応機構の解明とプロセス設計に必要な多くの基礎データを得た。この成果は、化学工学会第46回秋季大会学生賞を受賞したと同時に口頭発表のプレゼンテーション技術についても評価された。さらに、ISHA2014（水熱・加溶媒反応についての国際会議）においてもポスター発表「Effects of adding organic acid at dilute concentration on hydrothermal depolymerization of cellulose」を行い、積極的に研究成果を発表した。また、これらの成果を国際誌に論文として投稿準備中である。
弓 削 秀 太	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	蛋白質からなるマイクロチューブを合成し、それが大腸菌を効率よく補足することを明らかにした成果が、イギリス化学会の雑誌『Chemical Communications』に論文として掲載された。さらに研究内容のイメージ図が当該号の表紙として採択され、世界中に広く紹介された。また、イギリス化学会誌『Chemistry World』のニュースや日本経済新聞でも紹介された。
木 須 遥 規	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	$\alpha$ -ボリルベンジアルコールを脱プロトン化すると、ホウ素置換基が炭素原子上から酸素原子上へ転位してカルボアニオンを生成するbora-Brook反応が進行することを明らかにした。また、核磁気共鳴法を用いたその反応速度解析において、極性溶媒・サイズの大きなカチオン・飽和な含ホウ素5員環骨格が反応を大幅に加速することを見いだした。これらの成果は第41回有機典型元素化学討論会において優秀ポスター賞を受賞した。
河 本 真 由 子	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	最近注目されているグラフェン・ナノチューブなどのナノ炭素材料表面と分子との非共有結合相互作用の強さに関して、相互作用するルテニウム錯体分子のピレン基の個数を系統的に変化させ、炭素表面への分子の吸着の強さとピレン個数との関係を電気化学的手法により初めて明らかにした。この知見は、ナノ炭素の伝導性を保持したままナノ炭素を分子センサーやエネルギー材料に応用しようとする場合の指針を与える結果であり、その成果は、第60回ポーラログラフイーおよび電気分析化学検討会において優秀検論会（ポスター発表の部）を受賞した。
小 島 千 絵 美	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	非対称ジボラン（4）化合物と末端アルキンが遷移金属触媒非存在下で直接反応して、対応するジボリルアルケンを与えることを見つけた。反応条件を精密制御すれば、3種類の異性体を作り分けることも可能である。この反応には末端アルキンのみならず、内部アルキンも適用可能であり、4置換ジボリルアルケンを与えることも発見した。これらの成果は国内外の学会において何度か発表している。そのうち、第67回有機合成化学協会関東支部シンポジウムにおいて若手講演賞を、日本化学会第4回CSJ科学フェスタ2014においてポスター賞を受賞した。
山 田 佳 奈	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	「10thIUPAC International Conference on Novel Materials and Their Synthesis」においてPoster Awardを受賞した。 新しい人工酸素運搬体（赤血球代替物）として、コア-シェル型の蛋白質クラスターを合成しその分子構造と物性、酸素結合能の相関を明らかにし、製剤としての安定性を向上させた。本研究の成果は、人工血液の実用化に貢献するものであり先進医療はもちろん社会全般に与える波及効果は極めて大きい。
藤 田 佳 祐	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 情報セキュリティ科学専攻	論文「小型球形アンテナにおける最大放射効率とそれを実現する励振電磁界について」が、電気学会・電子情報通信学会主催の電磁界理論シンポジウムにおいて、電磁界理論研究会学生優秀発表賞を受賞した。 この研究成果は、学会からも学術的にも優秀な研究と認められ、本学の名声を高めるのに大きく貢献した。

【スポーツの分野（団体）】

水泳部	第90回 日本学生選手権水泳競技大会（インカレ）	学校対抗	団体優勝
バレーボール部	平成26年度 春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦 第67回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会	18年ぶり13回目	優勝 優勝
準硬式野球部	東都大学準硬式野球春季リーグ戦 第66回 全日本大学準硬式野球選手権大会	9季連続58回目 11回目	優勝 優勝
自動車部	全日本学生自動車連盟年間総合杯（団体）		総合優勝



バドミントン部	第65回 全日本学生バドミントン選手権大会 (インカレ)	団体優勝
---------	------------------------------	------

【スポーツの分野 (個人)】

但馬 ミツロ	商学部 2年 (ボクシング部)	第69回 国民体育大会 第84回 全日本ボクシング選手権大会	成年男子ライトヘビー級 ライトヘビー級	優勝 優勝
石川 祐希	法学部 1年 (バレーボール部)	第17回 アジア競技大会 (仁川) 第67回 秩父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会	日本代表	2位 最優秀選手賞
宮本 慎矢	法学部 4年 (スキー部)	第27回 ユニバーシアード冬季競技大会	スキー/アルペン	日本代表
宮本 隼輔	経済学部 2年 (自転車競技部)	第70回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会 (インカレ)	男子スプリント	優勝 (2連覇)
西本 拳太	法学部 2年 (バドミントン部)	第65回 全日本学生バドミントン選手権大会 (インカレ)	男子シングルス	優勝 (2連覇)
梅ヶ谷 翔	法学部 1年 (剣道部)	第62回 全日本学生剣道選手権大会		優勝

【スポーツの分野 (OB)】

飯塚 翔太 ミズノ株式会社	陸上競技部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子4×400m 優勝 男子4×100m 2位 男子200m 4位	日本代表	
遠藤 一星 東京ガス	硬式野球部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川)	日本代表	3位
高橋 雄介 中央大学理工学部教授	水泳部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川)	コーチ	日本代表
塩浦 慎理 株式会社ナガセ イトマン東進	水泳部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子50m自由形 2位 男子4×100m 2位 男子100m自由形 3位	日本代表	
原田 蘭丸 自衛隊体育学校	水泳部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子4×100m 2位 男子100m自由形 4位	日本代表	
田中 弘 田中企画	ソフトテニス部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川)	監督	日本代表
小野 龍猛 株式会社ASPE	バスケットボール部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川)	日本代表	
天野 雅之 中央大学職員	レスリング部OB	2014年 世界選手権 (グレコローマン)		8位
羽野 一志 NTTコミュニケーションズ	ラグビー部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川)	日本代表	男子7人制 優勝
本間 孔一 (公社) 日本フェンシング協会	フェンシング部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川)	コーチ	日本代表
千田 健太 筑波大学大学院	フェンシング部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子フルーレ団体	日本代表	優勝
坂本 圭右 自衛隊体育学校	フェンシング部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子エペ団体	日本代表	2位
宮山 亮 NEXUS株式会社	フェンシング部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川)	日本代表	

須田 貴浩 アイリスオーヤマ 株式会社	ボート部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子軽量級ダブルスカル	日本代表 優勝
今井 裕介 NTT 東 日 本	ボート部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子エイト	日本代表 2位
田立 健太 戸田中央総合 病院 RC	ボート部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子エイト	日本代表 2位
飯島 誠 ブリヂストン サイクル株式 会社	自転車競技部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) コーチ	日本代表
山下 敏和 自衛隊体育学校	射撃部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) 男子ライフル3姿勢団体 男子ライフル3姿勢個人 男子エアライフル団体	日本代表 3位 5位 5位
磯部 結花 堀場製作所	射撃部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川)	日本代表
木立 彰 豊産管理株式会社	スキー部OB	第17回 アジア競技大会 (仁川) コーチ (カヌー)	日本代表
神崎 信彦	スキー部OB	第27回 ユニバーシアード冬季競技大会 アディショナルオフィシャル	日本代表
吉田 圭伸 陸上自衛隊	スキー部OB	2015 FISノルディック世界選手権大会	クロスカントリー 日本代表

## 第 16 回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が、毎年卒業する学生のうち、学業成績優秀または文化活動に顕著な功績を挙げた卒業生に対して授与するものです。

該当者なし		
-------	--	--

## 第 29 回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。(南甲倶楽部は実業界で活躍するO.Bが組織する団体)

中島 亜理沙	法学部 4年	在学中の学業成績が優秀でありかつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚い。
藺田 明香	経済学部 4年	学業成績優秀であり、学部学生の模範となるに相応しく、南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断した。
町田 瞭	商学部 4年	学業成績が優秀であり、難関とされる公認会計士試験に在学中に見事合格した。また、ゼミにおいても熱心に取り組み、人物面も良好であり、指導教員及びゼミ生等からの信頼も厚い。
米川 翔太	理工学部 4年	学部4年間を通して常に優秀な成績を維持してきた。また、課外活動の弓道部の指導部長を担い責任を持って部活動の運営に協力してきた。卒業研究では「レーザー冷却原子のための焦点可変光トラップ」というテーマに意欲的に取り組み、波動光学を駆使した光トラップ光源の作製と性能評価について理論と実験の両面から理解を深めた。この研究に打ち込む熱意、自分で取得した実験データに基づく研究報告での分かり易くまとめた発表の仕方は同級生達の模範となっている。
宮田 葵	文学部 4年	まじめに勉学に取り組み、優秀な成績を収めてきた学生であり、周囲の学生から慕われるリーダー的な存在で、関礼子教授のゼミナールでは、ゼミ長として活躍した。執筆した卒業論文は、学部生の優秀論文を紹介する『白門国文』（中央大学国文学会）最新号に掲載される予定となっている。卒業後は本学で学んだことを活かし、社会に貢献してくれる有意な人材になると確信している。

水口 明日香	総合政策学部 4年	履修したすべての科目についてほとんど欠席遅刻をせずに熱心に勉強に励み、大変優秀な成績を残した。ゼミではリーダー的な存在となり、日本企業が性的マイノリティ (LGBT) を顧客として取り込んでいく過程を追いながら、それが一般人のLGBT理解を促し、経済的効果もあげるといふ利点と、企業のイメージ向上の戦略の一つのツールとしてLGBTが利用されるにすぎない可能性もあるという欠点の両方を、バランスよく描出した研究を完成させた。卒業論文も優れたものであり、執筆のための資料を得るために、また見聞を広めるために、本人は何度も海外へ行き、現地の人々と接触を重ねており、その行動力も抜群である。卒業後は株式会社JTBに入り、これまでの数々の海外経験を活かして、日本人に最適な旅行を提供するだけでなく、来日する外国人旅行者の日本理解を深めるために多大な貢献をするなど活躍が確信できる。
--------	-----------	---

## 第 10 回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

関 鍵	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 情報工学専攻	中国の大学を卒業後来日し、IT系企業でシステムエンジニアとして働いていた。そして、情報科学の専門的知見を得ること、日本文化を学ぶことを二つの大きな目的とし入学した。動機づけが明確であることから、知識獲得と専門分野の研究に非常に積極的に取り組んでおり、優秀な成績を収めている。研究テーマはソフトウェア開発においてレビュー作業の負荷とリリース後の品質バランスを考慮した工程計画を立てることである。現在、日本と中国の企業を顧客とするIT会社の経営に携わっており在学中に養った専門分野の能力を実社会に活かすとともに日本と中国を結ぶよう活躍することが大いに期待される。
-----	---------------------------------	---

## 第 1 回 法務研究科東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、将来法曹として活躍が期待される人材の育成に資することを目的として、社会実務等の経験を有して法務研究科に入学し、在学中の業績が顕著と認められた学生に授与するものです。

吉田 知世	大学院法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	会社勤めをしていた際に顧客から様々な相談を受け、法律問題の重要性を痛感し、一念発起して法曹を志した。クラスでも取りまとめ役を買って出るなど、仲間からの信頼も厚く、優秀な成績も収めている。将来は、社会経験を生かし市民のための法曹として活躍してくれると確信している。
-------	-----------------------------	---